

新ひだか町二十間道路桜並木の樹勢回復措置・その6

1 はじめに

2023年（令和5年）11月9日から11月10日まで、新ひだか町の二十間道路桜並木の「花のトンネル」の入口付近の大山桜計5本を対象に、樹勢回復措置を行いました。「花のトンネル」は、二十間道路の支線にあたる大山桜の並木道で、二十間道路とは違って、道の狭さによって対照的に桜並木の美しさを演出しています。この並木の横にある広場では、「しずない桜まつり」期間中、露店が並び、多くの花見客が集まるメイン会場となっています。



花のトンネル 2017.05.08 金田正弘氏撮影

2 樹勢回復措置

「花のトンネル」の樹勢回復措置としては、これまで、2019年、2020年、2022年に割竹縦穴式土壤改良法を行っています。2023年は、花のトンネルの中で観光客の立ち入りが多い入口周辺の5本の桜を対象に割竹縦穴式土壤改良法又は縦穴式土壤改良法で、土壌の柔軟化の措置を行いました。作業の参加者は、樹木医金田正弘氏、御子息の金田紘幸氏、当社樹木医木戸口和裕の計3名で行いました。

作業内容は、次のとおりです。

- ①穴あけ器によるエアレーション
- ②アースオーガーによる（割竹）縦穴式土壤改良法（桜5本中1本は除く）
- ③新ひだか産堆肥等を縦穴や根域全体への散布
- ④縦穴表面に上記③充填後に「フジミ®Forest」等の散布
- ⑤枯損枝落とし



エアレーション

2023.11.09



アースオーガーによる掘削

2023.11.09



割竹縦穴への堆肥の充填 2023.11.09



堆肥の散布 2023.11.10

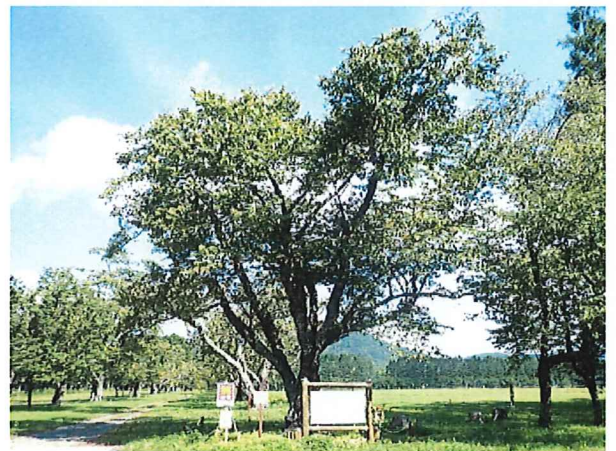
今回の作業の特徴は、①のエアレーションを根域全体的に徹底的に行い、土壌への酸素の供給を行ったこと、③の新ひだか産堆肥をこれまでになく大量に使い、土壌を柔らかくすることです。

5本中4本は、既に割竹縦穴式土壌改良法を行った木であり、新たにアースオーガによる掘削の手応えとしては、思ったよりも土が柔らかくなっていました。この理由としては、金田樹木医等が御礼肥えを行ったこととともに、隣接した過去の縦穴を起点に、ミミズや土壌微生物の働きを活発化した結果ではないかと思われました。

なお、露店側の広場と桜の根域との境目は、砂利が厚く転圧されているため、土壌の柔軟化は見られず、相変わらず硬い土層となっていました。



開花基準木の開花状況 2023.05.02



開花基準木の開葉状況 2023.08.25



開花基準木の土壌改良状況 2023.11.10

また、作業した5本中の1本は、二十間道路桜並木の開花の基準木で、2023年5月2日の開花状況、8月25日の開葉状況の視察でも葉量は多く、樹勢はH核的良好の方と判断していますが、シンボルツリーとして、さらなるブラッシュアップを目的として、縦穴式土壌改良法を行いました。

なお、8月25日には、この基準木のそばに「熊注意」の標識が設置されていました。2023年は全国的にも熊の出没や被害が多い年でした。山間地だけでなく、人里での育樹作業においても、ヒグマ対策を意識したリスクアセスメントの実施をしなければならない時代が変わったと思いました。